

令和3年度



東明小だより

第6号

令和3年8月30日(月)

「未来へ飛びたつ東明小」 ～前期後半スタート～

校長 奥村 哲也

今年の夏は、テレビでスポーツを観る時間が例年より長かったように思います。オリンピック、高校野球、パラリンピック等々。高校野球では、県岐商が一回戦で負けてしまったのが残念でした。校歌を歌う姿を観たかったのですが…。

甲子園では、90年ほど前から勝利チームの校歌斉唱が行われているそうです。さらに、20年ほど前からは、2回の表裏に両校の校歌が流されるようになったとのこと。校歌は学校のシンボルであるが故、甲子園でもそれだけ大切にされているのでしょう。

さて、本校、東明小の校歌は、1971年(昭和46年)に制定されました。昭和44年に校名が「東小」から「東明小」に改称された2年後のことです。今年でちょうど50周年になります。当時の記録を探してみたところ『学校通信東明小』(昭和46年3月25日発行)に、次のようがありました。

「東明小校下全域から校歌を募集しましたところ、締め切り期日までに多数応募くださいました。校歌選定にあたっては、

P T A役員と秋山先生並びに小島先生にご参加願ひ慎重に審議した結果、久々利の金子恵美子さんの詩が東明小学校の特性と教育目標をよく表しておりましたので、これを詩としての形態、作曲上の規制等の点より補作していただき以下(右)のように決定しました。(一部略)」

可児市立東明小学校校歌
作詞 金子恵美子
編作 秋山千枝
作曲 小島幸夫

清い流れや 山のかげ
こだまを呼んでひびく声
鍛えていこうこの体
未来へ飛びたつ 東明小

広い大地と 青い空
光の中に 合う瞳
深めていこう 知と愛を
未来へ飛びたつ 東明小

白い学び舎 映える木々
緑の中に 手をつなぎ
合わせていこうこの力
未来へ飛びたつ 東明小

歌詞を見てみますと、1番から3番までいずれも「未来へ飛びたつ東明小」で締めくくられています。コロナ感染拡大、大雨洪水、熱中症…、不安で大変な今だからこそ、苦境を乗り越え、夢と希望をもって、未来に向かって羽ばたくことのできる力を育てていかなければならないと改めて思います。子どもたちが、体を鍛え(たくましさ)、知と愛を深め(かしこさ)、力を合わせて(やさしさ)、笑顔の学校生活を送ることができるよう応援していきたいと思います。

いよいよ前期後半が始まります。しかし、感染が拡大し、8月27日から「緊急事態宣言」が適用されるなど、学校においても様々な対応が求められています。「分散登校」をしたり、学校行事を中止・延期したりしなければならない状況にありますが、ご理解とご協力をお願いします。学習活動にも制限があり、現在、みんなで一緒に歌を歌うことができません。全校そろって元気よく校歌を歌える日が一日も早く来ることを願っています。